

令和元年度現地視察学習会（根室訪問） 実施報告

1 事業概要

(1) 目的

根室市を訪問し北方領土を実際に見る体験を通じ、北方領土問題に関心のある教員の裾野を広げる。これにより、次代を担う青少年に対し啓発活動を行う人材の拡大を図り、併せて教育者会議のメンバーの充実も図る。

(2) 実施主体

北方領土の返還を求める都民会議

(3) 実施期間

令和元年7月30日（火）・31日（水）（1泊2日）

(4) 視察場所

北海道根室市

(5) 主なスケジュール

7月30日（火） 「ジョバンニの島」鑑賞、北方四島交流センター視察、スナックサテンドール経営者（根室への移住者）との懇談、元島民（語り部）による講話、地元教員（根室高校）による講演（宿泊：根室）

7月31日（水） 納沙布岬、北方館、道の駅スワン44ねむろ視察

(6) 視察団員

17名（中学校教職員等14名、事務局3名）

(7) 事業経費

205万円

2 現地視察の様子



北方四島交流センター視察



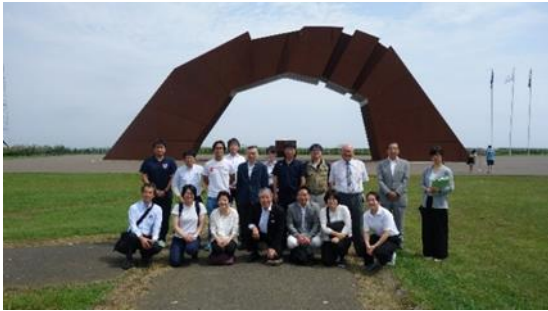
熱心に見学する参加者



スナックサテンドールでの懇談



根室高校（富谷先生）の講演



四島のかげ橋の前で記念撮影



納沙布岬にて



北方館館長の説明を受ける参加者



北方館内展示物見学

3 参加した教育指導者の感想

○納沙布岬から、昆布漁を行う漁船に混ざり、日本の国境警備艇が見えた。目には見えないが、日本とロシア両国の境がすぐ近くにあることを強く感じる事ができた。島国である日本において、このように他国との国境を感じる場所は数少ないと思う。

○北方領土を実際に見て、中学生にとっても北方領土問題が、自分の国が抱える問題であり、自分にとっても身近な問題として関心を持たせることの重要性を改めて実感した。

○なかなか自分でも理解が深まっていない、北方領土について詳しく学ぶ大変貴重な機会であった。

- 現地でのごみ問題や北方領土占領の背景に米ソの対立があったことなど知らないことをたくさん学べてよかった。また元島民の方や現地の先生方のお話もとても参考になった。今後の指導に生かしていきたい。
- 他の中学校の先生とも交流ができ、どんな授業を行っているか等の意見交換ができた。
- サテンドールのマスターのお話が貴重だった。来店される地元の方の切実な思い（四島一括返還ではなく、生活がかかった二島先行返還）や、返還事業に絡む利権の問題等を話してくださり、問題の難しさを改めて思った。